

広域人事だより

<第15号>

～①現広域異動者編～

(令和5年11月24日発行 北海道教育庁教職員局教職員課人事制度・免許係)

広域人事（離島人事交流を含む）で異動し、現在各地で活躍されている先生方から近況報告をいただいたので、ご紹介させていただきます。

「広域人事だより第15号」＜現広域人事異動者＞ 執筆協力者

No	管内名	市町村名	学校名	氏 名	異動元管内・所属等				広域人事 異動年月日
					区分	管内名	市町村名	学校名	
1	石狩	当別町	西当別中	八鍬 怜太郎	若手	日高	平取町	振内中	R5.4.1
2	後志	二セコ町	二セコ中	宮地 誉志幸	若手	空知	砂川市	砂川中	R3.4.1
3	渡島	北斗市	大野小	荒木 里奈	若手	檜山	江差町	江差小	R3.4.1
4	檜山	奥尻町	奥尻小	佐々木 秀哲	離島 (中堅)	渡島	函館市	東山小	R3.4.1
5	留萌	羽幌町	天売中	林田 伸一	離島 (中堅)	釧路	弟子屈町	弟子屈中	R2.4.1
6	留萌	羽幌町	焼尻小	吉田 理見子	離島 (中堅)	後志	小樽市	長橋小	R3.4.1

(広域人事異動者)

氏名	八鍬 怜太郎	現任校	当別町立西当別中学校(石狩)	前任校	平取町立振内中学校(日高)
----	--------	-----	----------------	-----	---------------

○地域・学校の様子

当別町は、石狩管内北部に位置する人口約 15,000 人の町です。明治初期に東北の名門伊達氏が入植して以来、農業を基幹産業として発展してきましたが、札幌市へのアクセスがよいことからベッドタウンとしての側面もある地域です。また、気候や風景が似ているスウェーデン王国との交流が盛んであり、近年では、2022 年の新駅「ロイズタウン駅」の開業も話題になるなど、歴史、産業、文化など、多様な特色がある地域です。

町内には、西当別中学校以外に小学校が 1 校、昨年度に開校した義務教育学校が 1 校、そして高等学校も 1 校あります。当別町は小中 9 年間を連続した期間と捉え、小中一貫教育を推進しています。本校は、校舎一体の義務教育学校ではありませんが、年間を通じて中学校の教員が小学校で授業を行ったり、小学 6 年生が中学校へ登校する日が複数設定されたりするなど、小中連携を目的とした取り組みが活発です。

○現任校での勤務状況

現在、1 年生 (35 名 1 学級) の副担任をしています。西当別中学校は、石狩管内の中では小規模校ですが、前任校と比べると全校生徒ほどの人数が 1 クラスの中にいるという状況に変化しました。そのため、なかなか全員に目が行き届かないことや、これまで意識することが少なかった集団への指導の方法など、戸惑うこともまだまだ多くあります。

しかし、所属学年だけでなく、経験豊富な先生方に学びながら少しずつ慣れることができました。また、学級数や教職員数が多くなったことで、これまで以上に情報の共有、組織的な動きの大切さを感じています。

教科では、1 年生と 2 年生合わせて 3 学級の社会科の授業を担当しています。授業時数自体は増えてはいませんが、管内や地域ブロックでの研修会、研究授業に参加できる機会も多くあり、自身の実践を振り返り、改善を図っていくために大変役立っています。

校務分掌は、研究部に所属し、特に ICT に関わる仕事を担当しています。当別町は ICT 活用に積極的に取り組んでいるため、非常に恵まれた設備や環境の下で情報機器の整備、活用のあり方について学ぶできています。今後、授業だけでなく教育活動、校務全般において情報化が進むことが想定されるなか、この地域に赴任し、本分掌に携わることができたことは、とてもありがたいことだと感じます。



○生活の様子

現在は、隣接する札幌市に暮らしているため、生活はとても便利です。前任校では、学校に隣接する教員住宅に居住していたので、本格的な車通勤は初めての経験で初めはやや負担にも感じましたが、慣れてしまえば、空間的にも時間的にも仕事とプライベートを区別し切り替えることができるので、自分自身に適した生活環境だと感じています。

○その他

私は道外出身であるため、道内各地の地域性やその中での学校の在り様を実際に知り、自らの知見を広げたいという考えで広域人事を希望しました。初めての異動で他管内に出ることは、少し早いかもしれないという不安もありました。

しかし、約半年が経ち、「〇〇はかくあるべし」というように自分の見方や考え方が固定化する前に、異なる地域性や学校文化を直接経験できる機会と環境を得ることができて本当に良かったと感じます。

今後、経験や年齢を重ね、少しずつ自信を得たとしても、自分の価値観や理想を常に疑い、省察し続ける人間 (教員) でありたいと思います。3 年間で様々なことを感じ、考えながら教員としてだけでなく、人間としても成長できるよう日々を過ごしていく所存です。

(広域人事異動者)

氏名	宮地 誉志幸	現任校	ニセコ町立ニセコ中学校(後志)	前任校	砂川市立砂川中学校(空知)
----	--------	-----	-----------------	-----	---------------

○地域・学校の様子

日本を代表するリゾート地「ニセコ」は、田舎らしいところ。最先端でお洒落なところ。意外と古風なところ。様々な要素が入り混じった唯一無二の地域です。正直な話、私は赴任が決まるまで、ニセコがここまで注目される地域であることを知らなかったのですが、住んでみてとても楽しい地域だと感じています。

ニセコ中学校は比較的小規模の学校で、全校生徒約100人、職員数は15人前後の学校です。明るく元気で前向きな子どもがとても多いです。

○現任校での勤務状況

着任して1年目は3年生の副担任と進路を担当しました。空知とは違う後志の高校の状況などわからないことだらけでしたが、生徒や保護者にはそんなことは関係なく人生がかかっていることです。また、ニセコの子どもたちの進路は多岐に渡り、近隣の学校に進学する子の他に、北海道内外の様々な高校の希望がありました。関係資料を読み込み、各種説明会に参加し、少しの抜けも無いように、生徒と保護者がわかりやすいように意識して行うことができました。



2年目は、3年生の担任と研究主任として頑張りました。3年生から担当するのは初めてのことでしたので、うまくいかないことも多々ありましたが、楽しいことも沢山ありました。試行錯誤しながらみんなと少しずつ関係を作っていくこの経験は、この後の人生にきっと生きてくることだと感じています。また、研究主任としてニセコ中学校の中心として授業改善を行いました。これまで「授業改善」ということを深く意識できていなかったのですが、「必要感のある課題とは何か」「次につながる振り返りとは何か」を先生方と考え、指導主事の先生方の助言も頂きながら、より良い授業を日々行うために研究を推進していきました。

3年目の今年は、1年生の担任と教務主任を担当しています。最近3年生を担当することが多かったのですが、久しぶりに担当する1年生はフレッシュかつ元気で、子どもたちに元気をもらっています。また、教務主任として学校の中核として、学校の運営に携わることができました。教務主任を経験して、学校運営や教育課程について、これまで何も意識せずに勤務していたのだと思い知らされました。

○生活の様子

隣町の倶知安町に住んでいます。倶知安町は後志総合振興局の所在地で、スーパーマーケットやホームセンターなど生活に必要なものは揃いやすく、病院や美術館など施設も充実しています。自然が多く、毎朝家の周りをランニングやウォーキングするのが気持ち良いです。

○その他

空知の砂川中学校で過ごしていた5年間は、自分は最年少でベテランの先生方の背中を見ているだけで精一杯だったように思います。ニセコ中学校では、年齢層が若く、自分はもう「若手」ではなく「中堅」として核として動く場面が多くなりました。ミドルリーダーとしてどう振る舞うと良いのか考えることも多くなりました。年齢層の若い管内と、高い管内での交流を体験できた良さだと思います。

また、北海道の職員でありながら、まだまだ知らないことばかりなので、北海道をより深く知ることができてすごく楽しかったです。後志と空知は距離的にはすごく近いですが、学校文化や運営の仕方、土地の雰囲気や風土なども全然異なることに驚きました。その一方で、土台にあるものは共通していて、そこはぶれずにこれからの長い人生に活かしていきたいと思いました。

(広域人事異動者)

氏名	荒木 里奈	現任校	北斗市立大野小学校（渡島）	前任校	江差町立江差小学校（檜山）
----	-------	-----	---------------	-----	---------------

○地域・学校の様子

平成18年2月1日、北海道の南、渡島管内のまち、旧上磯町と旧大野町が合併し、道内35番目の市として誕生した北斗市。そこは肥沃な大地と北海道の温暖な気候に恵まれ、津軽海峡に面した海から採れるホッキ貝を代表とした魚介類、そしてトマトなどの農作物、さらに、松前藩戸切地陣屋跡の桜並木など、魅力が多くあります。そして、平成28年北海道新幹線の駅が北斗市で開業し、街には更なる活気が生まれています。



北斗市立大野小学校は、1878年（明治11年）2月16日に公立大野学校として開校しました。現在は各学年2クラスずつと特別支援学級で編成され、298名の児童が在籍しています。目指す子どもとして「多様性を尊重し、自己理解・他者理解できる子どもをはぐくむ学校」を掲げ、自分のよさを認識し他者を認め共に高め合い、自分の人生を切り拓き生涯を生き抜く力をもった大人になって欲しいと願い、教職員一同全力で教育活動に取り組んでいます。

○現任校での勤務状況

今年度は58名が在籍している5年生の中で、2組担任をしています。前任校では単学級でしたが、現任校は各学年2クラスということもあり、同じ学年の先生と授業準備を行うだけでなく、担任間で教科担当を決めて授業を行うなど、学年団で協力して子どもたちを育てる環境になっています。

校務分掌では学習部部長として、校内研究の推進に力を入れています。『意欲的に学ぶ子の育成』を目指し、主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を進められるよう、各学年1回の公開授業を行っています。また、日々の授業に直結するような研修を目指し、自分自身も外部の研修会に足を運びながら、先生方へ還元できるようにしています。

校内ではまだまだ若手ですが、大きな仕事を委ねていただき、経験をたくさん積ませてもらえる環境に感謝しています。



○生活の様子

今までよりも、スーパーや商業施設までの距離は近くなり生活がより豊かになりました。

○その他

私が広域人事を希望した理由は、多くの子どもが在籍する学校ではどのように教育活動を行っているか学びたかったからです。檜山管内で教えてもらったことを最大限に生かしつつも、最初は多くの子どもたちに指示を届けることに苦戦しました。今では自分に足りなかったことを見つけ、自分自身が改善していくことで、子どもたちのより良い学びに結び付いていると感じます。目指したい姿をイメージし、広域人事を希望したことで自分の力を高める良い機会になりました。

(広域人事異動者)

氏名	佐々木 秀哲	現任校	奥尻町立奥尻小学校（檜山）	前任校	函館市立東山小学校（渡島）
----	--------	-----	---------------	-----	---------------

○地域・学校の様子

奥尻町は、北海道南西部の日本海上に浮かぶ島です。透明度が高い綺麗な海に囲まれ、奥尻島の海は「奥尻ブルー」と言われています。豊富な海の幸や大自然が広がっているのが奥尻島の魅力となっています。奥尻島の漁業は、重要な産業になっています。様々な魚や海藻、貝類がとれます。しかし、年々資源が減少し、漁獲量も減ってきているため、これからの漁業はとるだけではなく、育てる漁業に取り組んでいます。奥尻島は、土地の4分の3が森林です。海と森がひとつながりになって豊かな生態系を作っており、その源が奥尻島に多く残されたブナ林です。奥尻の森の大半を占めるブナは多くの生き物を育てています。



奥尻町には、小学校2校、中学校1校、高等学校1校があります。奥尻小学校は、全校児童45名の小規模校で、4・5年生は複式学級となっています。児童会が中心として、あいさつ運動や児童同士のつながりを大切にした集会活動や縦割り班清掃など数多くの取り組みがあります。また、地域の人材を活用した学習が積極的に行われ、地域・保護者・児童・教職員が一体となって、教育活動にあたっています。

○現任校での勤務状況

広域人事3年目となる今年度は、3年生(7名)を担当しています。子ども一人一人にきめ細かな指導ができるといった点が小規模校での利点だと思います。しかし、学年の人数が少ないことなどから、人間関係が固定化されることや多様な考え方が育ちにくいといったことが課題としてあげられます。子ども同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深めることができるよう授業改善に努めています。1年目には、幼小連携授業、2年目には、奥尻町教育協議会(算数・数学部会)で授業を公開し、教員同士(幼・小・中・高)の学び合いや交流をしながら、研修意欲を喚起させるとともに視野を広め、実践的な指導力の向上につなげることができました。

校務分掌は、教務・学習指導部を担当しています。教務主任として、学校内における連絡調整をしながら、学校運営の円滑化に資するとともに、教育活動をより充実、活性化させることができるようにしてきました。また、校務支援システムで業務負担と長時間労働を軽減し、児童に必要な指導を行うための環境を整えられるようにしています。

○生活の様子

島内には、コンビニや商店があり、生活する上で大きな支障はありません。江差までフェリーで2時間10分程度、函館まで飛行機で30分程度、丘珠まで飛行機で1時間程度であり、島民割りで週末は島内を出ている方もいます。フェリーや飛行機は悪天候によって欠航になることもあるので、週間予報などをこまめに確認しておく必要があります。



○その他

広域人事で異動してきてからの2年間は、コロナの影響で様々なことが制限されてきましたが、今年度からコロナの制限が緩和されました。奥尻島の三大祭りも開催されました。これまで制限されてきた教育活動については、その必要性を十分に検討しながら、単にコロナ禍以前の姿に戻るのではなく、本校の実態を踏まえながら、学校教育活動で必要なものを回復させるとともに、GIGAスクール構想のもとで生み出されてきた多様な教育実践の工夫を取り入れていくことが必要だと思います。

氏名	林田 伸一	現任校	羽幌町立天売中学校(留萌)	前任校	弟子屈町立弟子屈中学校(釧路)
----	-------	-----	---------------	-----	-----------------

○地域・学校の様子

天売島は、留萌振興局管内の羽幌町からおおよそ 30 km 西にあります。周囲はわずか約 12 km、人口も 270 名ほどの大変小さな島です。基幹産業は漁業で、夏には多くの観光客が訪れます。魅力は何と言っても美しい自然です。貴重な海鳥を始め、四季折々に姿を見せてくれる野鳥は天売島の宝です。中でも初夏の夕暮れから夜にかけて、空と大地がウトウという海鳥で覆い尽くされる光景は何度見ても感動します。

そんな素晴らしい自然の中に、勤務している天売小中学校があります。今年度は児童 8 名、生徒 8 名、計 16 名の極小規模校です。人数は少ないですが、みんな素直で明るく、いつも元気な声が校舎に響き渡っています。保護者、地域の方々もとても教育に熱心で、日常の教育活動や行事などには積極的に協力していただきます。



○現在校での勤務状況

着任以来、中学校の英語を中心に小学校 3, 4 年生の外国語活動、5, 6 年生の外国語も担当させていただき、英語教育における小中連携の在り方を実際に経験し、自分自身、大変勉強になっております。小中併置校ならではの教育活動の一つだと思います。

教職員数は小中合わせて 15 名で、同じ職員室のため日常の児童生徒の情報交流がしやすく、様々な情報を共有して指導できる場所も併置校の強みだと感じています。また、各種研修会等への参加も最近ではオンラインで実施されることが多くなり、島外に出かけなくても充実した研修が受けられるようになってきています。

○生活の様子

島にはコンビニ、温泉はありませんが、食糧品や日用雑貨がほとんど揃っている商店や診療所、郵便局もあり、通信販売なども上手く利用すれば日常生活にはさほど不便を感じません。島外へ出るにはフェリーと夏場の高速船のみです。天候や波の状況で欠航することも決して少なくありませんが、それも含めて島の生活だと割り切り、帰省の際などは予報を見ながら一喜一憂しています。島民の方々も気さくで、外で会うと声を掛けてくださったり、時には海の恩恵をいただいたりすることもあります。

○その他

私は今まで釧路管内の中学校で勤務してきましたが、定年も目前に迫り最後の機会になると思い、思い切って 4 年前に広域人事(離島交流人事)に応募させていただきました。全く見知らぬ土地での生活、教育環境の違い等、当然戸惑うことも多々ありましたが、その一つ一つに精一杯取り組むことで、新たな発見や気づきもあり、また自分の引き出しが増えました。地域の方々ともつながりを深めることもできました。残りの教員生活は僅かですが、これからも目の前の子どもたちの成長に携わっていきたいと思います。ご清覧ありがとうございました。



(広域人事異動者)

氏名	吉田 理見子	現任校	羽幌町立焼尻小学校（留萌）	前任校	小樽市立長橋小学校（後志）
----	--------	-----	---------------	-----	---------------

○地域・学校の様子

学校の玄関を出るとグラウンドの背に日本海の広い海と利尻富士を眺めることができます。春には、学校のすぐ脇道では黒百合が咲き、海では、鯨の群来や目の前でイカ釣りの漁火と素敵な光景が広がります。焼尻島は、羽幌町からフェリーに乗り1時間ほどで着く島です。白浜キャンプ場、めん羊牧場などがあります。島は一周は10kmほどで3分の1が原生の森。高山植物や原生花が咲き競い、多くの野鳥が遊び羽を休めます。森を抜けると牧草地帯が広がり顔の黒い羊が出迎えてくれます。

島民は、約160人が暮らしています。私が勤務する焼尻小学校は、児童3名、併設の中学校は、生徒1名の全校児童生徒4名の極小規模校です。学校スローガンに『一人一人の子どもを主語にした「ひらめく」「きらめく」「ときめく」学校へ!』を掲げ、学校・保護者・地域が一体となり子どもたちを育てています。児童生徒たちは、明るく元気で素直です。

○現任校での勤務状況

離島人事交流3年目の今年度は、小学校2年生1名の担任です。校務分掌は、生徒指導・児童生徒会・保健・文化を担当しています。1年目の時は小学校のみで校長の他3名の教員でしたが、2年目より中学校が復校し、教員数も全員で8名になり、仕事にも余裕が生まれ、年齢層も幅広く活気に満ちた職場になり、楽しく過ごしています。

また、授業が1対1という授業形態が初めてだったので、戸惑いもありましたが、それにも今はすっかり慣れてきました。「家庭教師にならないように…」と前任の校長先生からアドバイスをいただいて、授業スタイルを崩さないよう気をつけています。また今年度は、隣の天売小学校の2年生も同じ1名なので、週1回、オンラインで朝の会を行い、交流しています。

○生活の様子

島に商店は2つ。お菓子、お醤油などちょっとしたものはありますが、生鮮食品は品数や量に限りがあるため、羽幌のスーパーに頼むとフェリーで届くFAX注文を利用する職員も多いです。今の時代、ネットで買い物ができるのであまり不便さは感じませんが、授業準備の際、「教材を100均で…と思いつくけど無い。」のが残念です。

○その他

着任して1年目は、コロナ禍だったので、保護者以外の島の方々との交流が全くできずに過ぎました。2年目より徐々に運動会・文化祭など行事に島民の方が来て下さるようになり、今年度から少しずつ島の催事も復活してきて地域と共に子ども達を育てられるようになってきているところなので、もう少しこの地で子ども達が社会で必要な力を身につけられるよう、努力したいと考えています。

